

平成 18 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏名 岩崎 敬二

| | |
|---|---|
| 最終学歴 | 1989年3月京都大学大学院理学研究科動物学専攻単位取得満期退学 |
| 取得学位 | 理学博士 |
| 所属学会 | 日本ベントス学会（運営委員・自然環境保全委員会委員長）、日本貝類学会（評議員・学会誌編集委員）、応用生態工学会（評議員・学会誌編集委員）、日本生態学会（自然保護専門委員会・外来種問題検討作業部会）、日本陸水学会、個体群生態学会、動物行動学会、野生生物保護学会、陸水生物研究会、兵庫淡水生物研究会 |
| 現在の専門分野 | 動物生態学、保全生物学 |
| 研究課題 | 海産・淡水産外来生物、特にコウロエンカワヒバリガイとシマメノウフネガイの生態と分布、移入手段、生態系被害と防除に関する研究 |
| <p>【研究上の特記事項】</p> <p>平成18? 20年度科学研究費補助金基盤研究C「外来海産軟体動物2種が在来生物群集に及ぼす影響の実験的解明」研究代表者</p> | |
| <p>【教育上の特記事項】</p> <p>奈良文化論I「大和の水」において「奈良のため池の現状と保全」の講義を担当し「蒼池の自然を守る会」代表・浜朝子さんと対談。世界遺産学概論Iにおいて「原生的自然との共生」の講義を担当。講義では、常にコンピューターを用いてPpower Pointなどのプレゼンテーション用ソフトやビデオ資料を使用し、写真や図表や動画を示しながら視覚的・聴覚的にわかりやすいよう工夫を凝らしている。環境演習では、野外調査を何度も実施して、自然体験の少ない最近の学生たちに、健全&不健全な自然環境を体験・理解できるよう努力している。</p> | |
| <p>【社会的活動】</p> <p>環境省「特定外来生物選定専門家グループ会合（無脊椎動物）」委員、京都府外来生物実態調査委員会委員、日本ベントス学会運営委員、日本ベントス学会自然環境保全委員会委員長、日本貝類学会評議員、日本貝類学会・学会誌編集委員、応用生態工学会評議員、応用生態工学会・学会誌編集委員、日本生態学会自然保護専門委員会・外来種問題検討作業部会委員、都祁村生涯学習講座「天然記念物と外来生物：日本の貴重な自然文化財とそれを脅かす生物たち」講演、なら奈良館世界遺産講座「原生的自然との共生」講演</p> | |
| <p>【学内活動】（学内職歴を含む）</p> <p>教養部主題科目主任、教養部教務委員長、学科増検討委員会委員、障害学生対応制度検討委員会委員、生物研究会・天文同好会・放送研究会等文化会クラブやサークルの顧問</p> | |

| 著書、学術論文等の名称 | 単著、共著の別 | 発行又は発表の年月 | 発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称 | 概要 |
|---|---------|----------------------------|--|--|
| (著書) Assessment and Control of Biological Invasion Risks | 共著 | 2006年12月 | IUCN and SHOUKADOH Book Sellers | 2004年に横浜で行われた外来種リスク評価国際会議の成果を基にして編集された、外来種のリスク評価に関する各分野の研究成果をまとめた書物 |
| (学術論文) | | | | |
| ムラサキイガイの初侵入年代と分布拡大過程 古川田溝氏の標本による推断 | 共著 | 2006年4月 | Venus, 64 : 151-159. | 石田惣氏・桑原康裕氏との共著。世界的に代表的な海産外来種ムラサキイガイの日本への侵入年代を、各地の博物館所蔵標本から検討した。 |
| 外来付着動物と特定外来生物被害防止法 | 単著 | 2006年7月 | Sessile Organisms, 23: 13-24. | 日本における海産外来付着動物の分布、移入手段、被害、生態、防除や法的規制の現状についてまとめた。 |
| Human-mediated introduction of marine organisms in Japan: a review. | 単著 | 2006年12月 | Assessment and Control of Biological Invasion Risks (eds. Koike, F., Clout, M. N., Kawamichi, M., De Poorter, M. & Iwatsuki, K.). pp.104-112. IUCN, Gland and SHOUKADOH Book | 日本における海産外来種の分布、移入手段、被害、分布拡大速度、防除や法的規制の現状についてまとめた。 |
| (学会発表) | | | | |
| 外来海産生物はなぜ特定外来生物に選定されないのか？ 特定外来生物被害防止法における付着生物の位置付けについて | 単独 | 2006年4月5日(東京海洋大学) | 第13回日本付着生物学会研究集会招待講演 | 日本における海産外来付着動物の分布、移入手段、被害、生態、防除や法的規制の現状についてまとめて発表した。 |
| 瀬戸内海の渚の保全：瀬戸内保全法30年を経た現状と課題：はじめに | 単独 | 2006年9月28日(広島県立産業技術交流センター) | 2006年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会自由集会 | 日本ベントス学会自然環境保全委員会として、上記のタイトルで自由集会を企画・主催し、趣旨説明と司会を行った。 |
| 博物館標本から検証するムラサキイガイの初侵入年代と分布拡大過程 | 共同 | 2006年9月29日(広島県立産業技術交流センター) | 2006年日本プランクトン学会・日本ベントス学会合同大会 | 石田惣氏・桑原康裕氏との共同発表。世界的に代表的な海産外来種ムラサキイガイの日本への侵入年代を、各地の博物館所蔵標本から検討した結果を発表した。 |
| 淡水産外来無脊椎動物の侵入実態と防除に向けた課題 | 共同 | 2007年3月22日(愛媛大学) | 第54回日本生態学会愛媛大会自由集会 | 淡水産外来無脊椎動物の侵入の実態と防除の課題についての自由集会を企画・主催し、司会と議論の進行係を務めた。 |